

重点目標 (令和8年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲の喚起を目指した授業研究の推進 ・自己有用感、自己肯定感の醸成 ・興味・関心をもつ活動を基盤とした生徒の育成 ・情報発信の充実 ・教職員の多忙化解消と心身の健康の保持増進 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者の連携 ・防災体制の確認と災害時体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校諸行事参加者を増やす。 ・保護者のニーズに合った行事設定をする。 ・授業参観を充実させる。 ・大規模災害時に対応ができるように、実戦形式の防災教育を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭等、諸行事に保護者が参加しやすくなるよう、分掌間の連携を強化して取り組む。 ・授業参観について、開催時期や方法を検討する。 ・日頃から防災意識を高め、防災訓練を通じ、大規模災害時に迅速かつ的確な行動ができるよう、より実践に近い方法を検討する。防災教育の充実を図り、より減災になるよう努める。
学習指導 (教務部) (各教科会)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度及び課題解決能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的な学習手法の研究 ・ICT機器を活用した授業の研究 ・授業規律の確立 ・教育課程の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちラーニング推進事業」の成果を踏まえ、各教科で学習手法を共有し、発展させていく。 ・ロイロノート・スクールや百問繚乱などのICTツールや、生成AIについて、積極的な利用を促すため、研修を行う。 ・社会人となるための規範意識について、きめ細かくていねいな指導を行うとともに、より組織的に指導を行う体制の構築をめざす。 ・次期学習指導要領を見据えて、指導や評価についての見直しを行うとともに、生徒や学校の実態を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の検討を行う。
生徒指導 (生徒指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や社会人としてのマナーの育成および確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を行う。 ・人権に配慮した環境づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が円滑に生徒指導を行える体制の構築を目指す。 ・学年会、学科および担任と保護者の連携を図り、段階を経た生徒指導を行っていく。 ・地域、交通関係団体との連携を図りながら、登下校の交通安全、交通マナーの向上を目指す。 ・学校に求められる内容について、教職員にとどまらず、生徒、保護者、企業などから幅広く意見を聞き入れ、春日井工科高校に求められる環境の整備を目指す。 ・担任や各分掌と連携をとり、生徒の状況を把握し適切な対応をとれるように体制を整える。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じての系統立てた進路指導の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導目標と指導手順を明確化させる。 ・進路全般について、十分な事前把握と情報共有をする。 ・内規、資料(キャリアパスポート、進路の手引き等)の活用をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から目的に沿った行事を策定し、系統立てた進路指導を行う。職員間の共通理解を図り、生徒(保護者)へ十分周知する。 ・進路の手引き(キャリアパスポート)を活用し、進路希望状況を把握する中で、選科指導・進路指導・進路相談を実施する。 ・進学・公務員希望者の進路指導は、校内外の協力を得ながらサポートしていく。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒に対する家庭・学校間の連携と速やかな対応 ・受診勧告者の受診率向上 ・清掃活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの聞き取りおよび状況の把握とスピーディーな支援方法の策定および職員への周知をする。 ・学年団と連携した受診勧告指導の実施をする。 ・学校歯科医と連携した歯科講話の実施 ・日々の清掃活動を通して掃除の大切さの周知を図り、今一度ゴミの分別回収についても意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議や特別支援委員会において、合理的配慮や手助けを必要とする生徒・保護者の考えを尊重し、特別支援教育コーディネーターと協力して、個々に合った適切な支援計画を立案する。支援にあたっては、周知の方法等をケースごとに検討し、保護者・生徒の理解を得て指導にあたる。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの情報共有をより密にし、生徒への充実につなげる。 ・学年や担任と連携した受診指導を徹底する。特に受診率の低い眼科、歯科について、より力を入れながら受診率の向上を目指す。 ・特に受診を要する生徒に対して、学校歯科医による歯科講話を実施する。その中で、早期に受診する必要や歯や口腔の健康を高める大切さを伝える。 ・生徒たちの学習・生活環境を自ら整える意識の向上を図る。特にトイレ掃除に力を入れる。また、ペットボトル・缶・ビンなどの分別回収を高めていく。

図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用の充実 ・視聴覚関係教室の整備と活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内の整備及び図書館利用促進のためのITを活用した情報発信を進める。 ・図書選定のための幅広い情報収集をする。 ・視聴覚関係教室・視聴覚教材等の整備、充実を図る。 ・図書委員会の活動の充実をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者数の増加に向け「より魅力的で利用しやすい図書館・視聴覚教室」の整備を目指す。 ・雑誌、新聞やインターネット等で幅広く情報収集することにより、時勢を反映し偏りのない図書選定に心がける。 ・図書の購入希望について、各学科・教科へ積極的に働きかける。 ・IT 機器を整備し、授業などで積極的に活用が高まる教室を目指す。また、効率化が図れるようなシステムを関係部署と連携する。 ・「図書館だよりの作成」や「図書館カウンター当番」等の仕事を通じて図書委員の活躍の場を更に充実させる。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室掲示や校内放送を利用し、広く情報を生徒に伝える。 ・生徒の意見を積極的に取り入れ、興味・関心を強くもたせる。 ・部活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事で生徒へ多くの活動の機会を与え、学校行事が円滑に回るように教職員がサポートする。 ・生徒の意欲的な意見を無駄にしないよう配慮しながらも、学校の教育方針を外れないようにする。 ・部活動の活動の様子を披露する場面を多く設定しながら、各部活動の魅力を発信していけるようにする。
工務部	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進 ・専門教育への興味・関心を高める取組(広報活動)の推進 ・安全教育の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を行うために、2年生では各種推進事業を積極的に利用し、インターンシップ等への参加機会を増やす。 ・中学校体験入学を充実させる。 ・安全教育に対し、意識の見直しや体験を通して、安全教育の拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来を生き抜く人材育成事業」等の公的事業を積極的に活用して、インターンシップの受入企業の開拓など充実を図る。また、地域連携「春工サポーター」企業と連携して、生徒への就業体験の機会を増やしながらか職業観を高める。 ・進路指導部や各学科と連携しながら、本校の魅力が高まるような企画を立てる。 ・地域連携「春工サポーター」を含めた各企業と連携し、体験学習やアドバイザーの設置を行い、安全教育の改善と充実を図る。
ロボット工学科	<ul style="list-style-type: none"> 地域から求められる技術者の育成 ・教員の指導力向上と実践的なものづくりの奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットシステムインテグレータの育成を進める。 ・国家資格技能検定シーケンス制御種目(シーケンス制御作業)の指導を通じて、現場で求められる技術者の育成を目指す。 ・実習や課題研究のテーマを実践的な技術や技能を身に付けさせるものに設定する。また、指導の中で教員が生徒とともに学ぶ姿勢をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット単体のプログラミングや操作だけでなく、センサ、アクチュエータ、周辺機器を含めた「システム全体」を統合・構築する思考(システムシンキング)を養う。 ・検定への合格を最終ゴールとするのではなく、「この技術が実際の生産現場でどのように役立つのか」という実践的な意義を常に意識付ける。 ・教員がすぐに正解を提示するのではなく、生徒自身に課題解決に向けた仮説を立てさせ、ファシリテーターとして生徒の思考を引き出す指導に徹する。
機械科	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高め、安全教育の実施 ・基礎学力の向上、ものづくりに関する基本的な知識・技能の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に応じた指導を心がける。 ・実習集合時の整列点呼及び安全教育の徹底 ・教員、生徒ともに日々の授業を大切にする意識の醸成 ・授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科内での指導基準を確立し、身だしなみや授業態度、安全教育に対して、些細なこともその場で指導する。繰り返しきめ細かい指導を徹底し、教員間で共通理解を深め、安全第一を徹底する。 ・「日々の授業を大切にす+人間性の向上」をキーワードとして、生徒が自ら進んで学習しようとする意欲を定着させる。そのための方策として、学習内容、検定補習などにおいては到達可能かつ具体的な目標を設定する。 ・より深い学びの場を資格・検定補習、競技大会の参加を通じて提供する。外部講師による指導を取り入れ、より質の高い技術・技能の習得を目指す。

電気科	<ul style="list-style-type: none"> 電気の基礎的な技術・技能を習得させるため、学習に意欲的に取り組む姿勢の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣と学習態度の向上を目指すため、資格取得や課題研究を通して、一人ひとりに達成できる目標をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気系の基礎資格の取得により、生徒に自信を付けさせ、更に上位資格に挑戦しようとする気持ちをもたせることで、各教科の理解度向上を目標とする。 2年生の座学・実習においては、第二種電気工事士の合格水準を目標に各工業科目の知識・技能の定着を図る。 3年生の課題研究においては、生徒の自主性と責任感の育成を目指す。また、生徒の取組姿勢や活動状況などの学びの過程に重きをおいた評価方法を目指し、そのための指導を充実させていく。
電子工学科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学べる体制づくり ものづくり教育の充実 生活コースの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学ぶための授業環境づくりの推進を図る。 進路に対する意識の向上を図る。 家庭科や外部と連携を密にし、生徒に対して幅広い学びの場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識を定着させ、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れることで、生徒自身が自ら考える姿勢を育成する。 学習活動を通して働くことへの意識を高め、自ら目標を設定し明確にすることで、生徒の学習意欲を向上させる環境を整える。 ものづくり教室を生徒が主体となり運営し、小・中学生に対し自らが身に付けた知識や技術を発揮できる場を提供する。 ものづくりや授業後の自主学習ができる環境を提供する。 学びの延長として資格取得を目標にした教育システムを構築し、生徒の目的意識を高めるとともに成功体験を積ませる。 授業において月に1回程度、企業・公共団体に講師を依頼し、指導をいただくことで、働くことと生活のバランス(ライフワークバランス)のとれた人材の育成を目指す。
1年	<ul style="list-style-type: none"> 高校生としての自覚をもった生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や授業規律の確立を図る。 HRや学年の全体指導でSSTを実施し、社会に出て活躍できる土壌を育む。 部活動へ積極的に参加するなど、好奇心や向上力を高める、 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を送るうえで、睡眠や食事などの生活習慣を整え、授業に向かうための健康状態をつくる。 学校生活を送るうえで必要なマナーなどを身に付けるため、SSTを実施し、生徒と職員で目標を共有し、声掛けを行いやすい状況をつくる。 学習以外の学校活動に積極的に参加する姿勢を促すため、それぞれの活動の魅力を伝えとともに、生徒個々のモチベーションを高める声掛けを行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向け、自己の能力の向上と主体性のある姿勢の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 校訓である「心を育て 自らを琢く」をもとに、自ら考え、行動できる人間を育てる。 1年後の進路を意識して、望ましい職業観を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活や授業、定期考査、校外学習、修学旅行といった諸活動を通じ、より良い選択をすることができるように常に考えて行動することを意識させる。 自らの将来について考える機会を設け、将来に向けた必要な準備を明確にさせる。併せて、望ましい職業観を育成するために社会を取り巻く環境を適宜伝える。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として自立(自律)できる生徒の育成 進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導やHR活動を通じ、社会人としてのあり方や必要な力を育てる。 進路実現に向けて、必要な情報を主体的に集め、そのために必要な能力を向上させる。 進路決定まで業後に基礎学力補習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会や各クラスで、今後社会人としての在り方や、必要な力を伝えていく。また、その内容を各月の学年目標に取り入れることで、学年として、人間として成長できるようにする。 進路に向けて、朝と帰りのSTなどを利用し、各クラスで必要な情報を提示し、自ら行動できるように促す。また、そのために必要な学力や対話能力などを向上できるように、補習を実施する。 進路決定に向けて基礎学力の補習を実施し、さまざまな問題に対して思考を促しながら知識を身に付ける。
学校安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の削減 業務ストレスの軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の定時退校日を設定する。 学期に1回のストレス軽減プログラムを計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現職研修の充実を図り、週一の定時退校日を徹底する。また、毎月の安全衛生委員会で、先月の残業状況を把握し、適切な改善が図れるようにする。 長期休業中は、原則的に毎日定時退校日とする。 年休や割り振り変更等の休暇利用の促進に努める。 教職員のメンタルヘルスを維持し、学期に1回の校内スポーツ大会を計画する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者や中学校、地域住民等の方に説明責任を果たしながら理解と協力を得て、開かれた学校づくりができたか。 2 教育目標への取組と成果を評価することにより、学校が組織的・継続的な改善を図ることができたか。 3 教育環境の整備や改善措置により、教育水準の保証や向上を図ることができたか。 4 家庭、地域、関係機関等との緊密な連携を図り、いじめの未然防止、早期発見、適切な措置等について組織的に取り組み、いじめのない学校づくりができたか。 		